

りんご生育情報(5月号)

令和8年5月20日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



1. 本年の「ふじ」生育状況



今年度の「ふじ」の生育は、発芽期が3月30日（平年差-3日）、満開期が4月27日（平年差-7日）となり、全体を通して平年より早く推移しました。

気象状況については、4月25日早朝に中田（八幡山）の観測地点にて最低気温-2.1℃を記録しました。これを受け、普及センターで管内4箇所の園地（東和・登米・中田）を巡回調査した結果、現時点において収穫量に影響する被害は確認されていません。

しかし、今後の果実肥大の過程で、凍霜害に起因する「さび」が発生する可能性があります。生産者のみなさまにおかれましては、園地の観察を徹底するとともに、果実の状態に応じた適切な管理作業に努めてください。

表1 令和8年度の生育状況結果（調査地：東和町錦織）

	発芽期	展葉期	開花始期	満開期	落花期
本年	3月30日	4月5日	4月23日	4月27日	5月7日
前年	4月6日	4月10日	4月28日	5月4日	5月15日
平年	4月2日	4月11日	4月29日	5月4日	5月10日
前年差（日）	-7	-5	-5	-7	-8
平年差（日）	-3	-6	-6	-7	-3

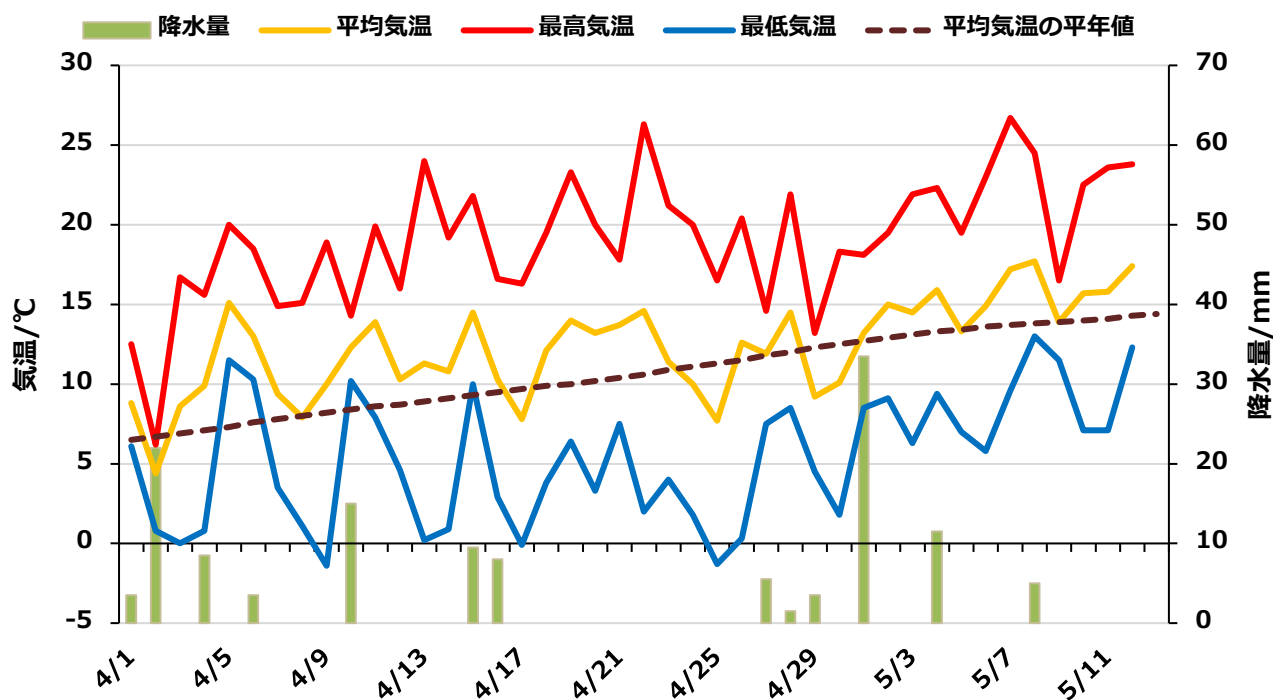


図1 4月1日～5月12日の気温・降水量の推移（アメダス地点：米山）



2. 今後の管理（摘果）について

発芽から開花までの生育には貯蔵養分が使われますので、結実が多ければその分貯蔵養分が多く消費されます。果実の細胞分裂は、開花4週間後頃には停止し、それ以降の果実肥大は主に細胞の肥大によりますので、早期に摘果することで大玉果が期待できます。

🍎 人手による摘果

中心果のガク立ちを確認したら、着果位置の悪いもの（腋芽果、枝の真上・真下など）から果そうごと摘果します。「ふじ」では、青み果など不良果実になりやすいため果台が長い果そうも全摘果します。6月に高温や日照不足が続き、新梢と果実間の養分競合が激しくなるとシュëndロップが発生しや

すいので、シュëndロップが発生しやすい品種では落花10日頃までには、良好な中心果を残し1果そう1果とします。

主要品種の適正な着果程度は表2のとおりです。ただし、樹勢など生育状況に応じて加減してください。特に、「ふじ」の場合は過着果すると隔年結果を起こしやすいので、成らせすぎないように注意してください。

仕上げ摘果の完了時期の目安は以下のとおりです。

- ・結実が良好な品種：**落花 25 日後まで** ※「ふじ」「つがる」「王林」など
- ・生理落果の多い品種：**落花 30～35 日後まで** ※「紅玉」「ジョナゴールド」など

表2 標準的な着果程度

品種	摘果の強さ
紅玉	3 頂芽に 1 果
つがる、 ジョナゴールド	3.5 頂芽に 1 果
ふじ、王林、シナノゴールド、きおう、 シナノスイート、ぐんま名月、はるか など	4 頂芽に 1 果
北斗	4.5 頂芽に 1 果
陸奥、世界一	5 頂芽に 1 果

注意

摘果剤「ミクロデナポン水和剤」は使用できません！

長年、摘果作業に活用されてきた「ミクロデナポン水和剤」の有効成分（NAC）について、メーカーの販売中止に伴い、**令和 8 年（2026 年）3 月をもって農薬登録が失効しました。**

販売禁止農薬以外の農薬であれば、最終有効年月内の使用に限り農薬取締法違反とはなりませんが、登録の失効を受け、残留農薬基準値が削除されている場合は、食品衛生法違反に問われる可能性があります。登録が失効した農薬は、残留農薬基準を守る観点から使用しないようにしましょう。



参考：「りんご生産指導要項 2024-2025」（公益財団法人青森県りんご協会）
「みやぎの果樹指導指針」平成 5 年 3 月（宮城県）
「農薬概説 2025」（一般社団法人 日本植物防疫協会）

※掲載されている農薬は令和 8 年 5 月 1 日現在の登録状況を確認しています。
使用する際は、事前に最新情報で農薬登録を確認の上、使用してください。

